

大垣市民病院

内科専門研修

プログラム

目次

内科専門医研修プログラム	・ ・ ・ ・ ・ P3
専門研修施設群	・ ・ ・ ・ ・ P15
専門研修プログラム管理委員会	・ ・ ・ P49
専攻医研修マニュアル	・ ・ ・ ・ ・ P50
指導医マニュアル	・ ・ ・ ・ ・ P57
各年次到達目標	・ ・ ・ ・ ・ P59
週間予定表	・ ・ ・ ・ ・ P60

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

1) 本プログラムは、岐阜県西濃医療圏の中心的な急性期病院である大垣市民病院を基幹施設として、岐阜県西濃医療圏・東海医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て岐阜県や東海地方の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として岐阜県全域や東海地方を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間 逆に連携施設2年間＋基幹施設1年間もあり）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。同時に2年相当の subspecialty の専門研修も受けられるように対応します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力である。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶ。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴がある。

そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能になる。

使命【整備基準2】

1) 岐阜県西濃医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、① 高い倫理観を持ち、② 最新の標準的医療を実践し、③ 安全な医療を心がけ、④ プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を習得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 大垣市民病院施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけではなく、主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

2) 基幹施設である大垣市民病院は岐阜県西濃医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病

診・病々連携の中核であります。一方で地域に根ざす第一線の病院でもあり、common disease はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病々連携や診療所（在宅訪問診療所などを含む）との病診連携も経験できます。そして外来・入院とも患者数は全国屈指であり、また先進的な医療も積極的に行っていることから、幅・奥行きともに十分な研修ができます。さらに救急患者数も多く、一次～三次まで受け持っているため、様々な救急診療の技術を身に付けることができます。学術活動も活発であり、リサーチマインドを身につけるにも良い研修環境です。

3) 専攻医 2 年目終了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（以降、J-OSLER と表記）に登録します。そして、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P 41 別表 1「大垣市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

4) 大垣市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、1～2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。西濃医療圏での地域密着型病院として西美濃厚生病院があり、西濃地区における地域医療の在り方について学ぶ事ができます。また西濃医療圏に限らず、他の東海医療圏の地域密着型病院として稲沢市民病院・総合大雄会病院・土岐総合病院・東濃厚生病院・東海中央病院・久美愛厚生病院、飛騨市民病院があり、この地域とは違った環境での地域医療を学ぶ事ができます。また、当院と同規模でありながら、地域が異なるため各病院との連携上の役割が異なる一宮市立市民病院・海南病院・名古屋第一病院・名古屋第二病院・市立四日市病院・岐阜県立多治見病院・岐阜市民病院では、病々連携についての知見を深めることが可能です。リサーチマインドを求める場合は、名古屋大学医学部附属病院・愛知医科大学医学部附属病院・岐阜大学医学部附属病院、大阪医科薬科大学病院での研修を選択することもできます。また、県外の地域密着型病院として岡山市立市民病院で地域医療の在り方について学ぶ事ができます。全ての病院が直接あるいは大学の医局を通して、症例や人事の交流のある病院であり、連携についての支障はありません。

5) 専攻医 3 年終了時で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録します。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P. 41 別表 1「大垣市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

6) subspecialty の専門研修についても 2 年相当の研修が受けられるように対応します。各 subspecialty 学会の専門医制度の内容に応じ、柔軟に対応いたします。

専門研修後の成果【整備基準 3】

本制度の成果とは、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することにあります。内科専門医が活躍する場とその役割として、以下のものが想定されます。

① 高い倫理観を持ち、② 最新の標準的医療を実践し、③ 安全な医療を心がけ、④ プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- 1) 病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。
- 2) 地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導で視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。
- 3) 救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

大垣市民病院内科専門医研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、岐

岐阜西濃医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準27】

下記 1)～7)により、大垣市民病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医は1学年8名とします。

- 1) 大垣市民病院内科専攻医は、2022年度3名、2023年度6名、2024年度3名です。
- 2) 剖検体数は、2022年9体、2023年4体、2024年8体です。
- 3) 診療実績は以下の通りです。外来患者診療を含めると、各疾患群で最低でも年間平均10症例は経験可能です（膠原病・アレルギー・救急は各科で分担）。

2024年度実績	入院延患者数(人／年)	外来延患者数(人／年)
消化器内科	21,516	45,024
呼吸器内科	23,941	31,981
循環器内科	26,341	38,715
糖尿病・腎臓内科	11,190	36,566
血液内科	10,251	13,931
神経内科	8,353	12,877
総合内科	2,198	6,080

- 4) リウマチ・感染症を除く11領域の専門医が1名以上在籍しています（P.16「大垣市民病院内科専門研修施設群」）。
- 5) 1学年8名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医3年目に研修する連携施設には、高次機能・専門病院2施設、地域基幹病院6施設、地域医療密着型病院7施設、計15施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。（P.4特性の4を参照してください。）
- 7) 専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群、120症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]
専門知識の範囲（分野）は「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

- 2) 専門技能【整備基準5】[「技術・技能評価手帳」参照]
内科領域の「技能」は幅広い疾患を網羅した知識と経験に裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】(P. 41 別表 1「大垣市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年

- ・症例「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群を経験し、日本内科学会専攻医登録システムにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。

- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録システムに登録し担当指導医の評価を受けます。

- ・技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができます。

- ・態度：専攻医は自身の自己評価と、指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価（専攻医評価と多職種評価）を複数回受け、態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを提供します。

○専門研修（専攻医）2 年

- ・希望科を研修します。希望によっては救命救急センター・通院治療センターの研修もできます。

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。

- ・各専攻医の症例指導医は、登録された症例の評価と承認を行います。

- ・専門研修修了に必要な病歴要約（指定された 29 症例以上）をすべて J-OSLER に登録します。

- ・担当指導医は登録された病歴要約の評価を行います。

- ・技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができます。

- ・態度：専攻医は自身の自己評価と、指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年

- ・連携施設で研修します。連携施設での研修は 1 施設最低でも 3 か月以上とします。

- ・症例：専攻医は主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上（うち外来症例は最大 20 症例まで）を経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の症例経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる。症例の内訳は最終頁 別表を参照）を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。

- ・専攻医として適切な経験と知識の習得ができることを症例指導医が確認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。

- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。この評価はプログラム外からの評価（外部評価）であり、プログラム内に留まらない多面的かつ客観的な評価を受けることとなります。また査読者から専攻医へは、評価とともにコメントがフィードバックされるため、査読者とのやり取りを通じて専攻医の成長が促されるという効果も期待されています。

- ・技能：専攻医は内科領域全般にわたる診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を自立して行うことができます。

- ・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改

善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力が修得されているかを指導医との面談を通じて評価し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

大垣市民病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能習得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。また並行して 2 年間相当の subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 1 3】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑦参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科のカンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な視点や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索とコミュニケーション能力を向上させます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と subspecialty 診療科外来（初診を含む）を概ね週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターの内科当直医として内科領域の救急診療の経験を積みます。1 か月に 1～2 回担当します。平日の各科救急当番・時間外の各科宅直医では該当研修科の救急対応を研修します。以上のような研修科における救急診療以外に希望があれば専攻医 2 年目以降に救命救急センターの研修を選択することができます。選択する場合、研修期間は最低でも 1 か月間とします。連携施設として当院で研修する場合にもこの研修は可能です。
- ⑤ 各科宅直医としては病棟急変などの経験も積みます。
- ⑥ 必要に応じて、subspecialty 診療科検査を担当します。
- ⑦ 希望があれば専攻医 2 年目以降に通院治療センターの研修を選択することができます。選択する場合、研修期間は最低でも 1 か月間とします。また、当院での研修では感染ラウンド・NST ラウンド・緩和ラウンドへの参加も可能です。ただし、毎日行っているものではないので、内科系各科を研修中に参加していただきます。連携施設として当院で研修する場合にもこれらの研修は可能です。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 1 4】

i) 内科領域の救急対応、ii) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、iii) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、iv) 医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項、v) 専攻医の指導・評価方法に関する事項などは、以下の方法で研鑽します。

② 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会（2024 年度実績は各々 1 回・2 回・2 回の計 5 回）

※内科専攻医は年に 2 回以上受講することが求められます。

③ CPC（基幹施設の 2024 年実績は 6 回 内科以外の症例も含む）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2024 年度：年 2 回開催予定）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：病診連携カンファレンス 2024 年度実績 4 回、大垣消化器懇話会 2024 年度実績 1 回、西濃喘息研究会 2024 年度実績 1 回、西濃びまん性肺疾患研究会 2024 年度実

績 1 回、西濃循環器懇話会 2024 年度実績 2 回、西濃血液疾患懇話会 2024 年度実績 1 回、西濃てんかん症例検討会 2024 年度実績 1 回 など)

⑥ JMECC (内科救急講習会) 受講

当院では 2016 年度からの計 7 回(2017 年度・2021 年度を除く)JMECC 講習会を開催しました。さらに JMECC ディレクターが 1 名、インストラクターが 2 名おり、指導者を自前で育成し永続的に JMECC を開催できるように取り組んでおり、今後も年 1 回の JMECC 講習会を開催して、当プログラムを専攻した専攻医全てに当院で受講していただける体制を整えます。

※内科専攻医は必ず専門研修 1 年目もしくは 2 年目に 1 回受講します

⑦ 内科系学術集会 (下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照)

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 など

当院はがん診療拠点病院であり、5 年目までの医師に緩和ケア研修会の受講が義務付けられているため、未受講の専攻医には専攻期間中に受講していただきます。

4) 自己学習【整備基準 1 5】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A (病態の理解と合わせて十分に深く知っている) と B (概念を理解し、意味を説明できる) に分類。技術・技能に関する到達レベルを A (複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B (経験は少数例であるが、指導者の立会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C (経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる) に分類。さらに、症例に関する到達レベルを A (主担当医として自ら経験した)、B (間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した))、C (レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています。(「研修カリキュラム項目表」参照)

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

②日本内科学会雑誌にある MCQ

③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題 など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 4 1】

内科専門研修に携わる者(専攻医、指導医等)は、日本内科学会の定める J-OSLER を利用して、以下の内容を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例以上の研修内容を登録します。指導医はこれを評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。

- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約二次評価査読委員(二次査読)による外部評価とフィードバックを受け、指摘事項に基づく改訂がアクセプトされるまでシステム上で継続します。

- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会(例;CPC、病診連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会等)の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 1 3・1 4】

大垣市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました(P.16「大垣市民病院内科専門研修施設群」参照)。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である大垣市民病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたって行ってゆく際に不可欠となります。

大垣市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
 - ② 科学的な根拠に基づく診断、治療を行う。(EBM: evidence based medicine)
 - ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
 - ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解に資する研究を行う。
 - ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
- といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
 - ② 後輩専攻医の指導を行う。
 - ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
- を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学習活動に関する研修計画【整備基準12】

大垣市民病院内科専門医研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します(必須)。
- ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例をもとに文献検索を行い、症例報告を行います。
 - ③ 臨床的疑問を特定して臨床研究を行います。
 - ④ 内科学に関連する基礎研究を行います。
- を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。
- 内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者として2件以上行うことが求められます。
- なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、大垣市民病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

大垣市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医ともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である大垣市民病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
- ⑧ 地域医療保健活動への参画

⑨他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩後輩医師への指導

※教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。大垣市民病院内科専門研修施設群研修施設は大半が岐阜県西濃医療圏および東海医療圏の医療機関から構成されています。

大垣市民病院は岐阜県西濃医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、common disease の経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの素養を身につけることもできます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である名古屋大学医学部附属病院、愛知医科大学医学部附属病院・岐阜大学医学部附属病院、大阪医科薬科大学病院、地域基幹病院である一宮市立市民病院・海南病院・名古屋第一病院・名古屋第二病院・市立四日市病院・岐阜県立多治見病院・岐阜市民病院、および地域医療密着型病院である稲沢市民病院・総合大雄会病院・土岐総合病院・東濃厚生病院・東海中央病院・久美愛厚生病院・岐阜市民病院・西濃厚生病院・岡山市立市民病院、飛騨市民病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、大垣市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研修や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

大垣市民病院内科専門研修施設群（P.16）は、そのほとんどが、岐阜県西濃医療圏と東海医療圏の医療機関から構成しています。連携施設の多くが車で約 60 分の移動時間であり、移動や連携に支障を来す可能性は低いです。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

大垣市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態・社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て、実行する能力の修得を目標としています。

大垣市民病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病々連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

具体的には西濃医療圏での地域密着型病院として西濃厚生病院があり、西濃地区における地域医療の在り方について学ぶ事ができます。また西濃医療圏に限らず、他の東海医療圏の地域密着型病院として稲沢市民病院・総合大雄会病院・土岐総合病院・東濃厚生病院・東海中央病院・久美愛厚生病院、飛騨市民病院があり、この地域とは違った環境での地域医療を学ぶ事ができます。また、当院と同規模でありながら、地域が異なるため各病院との連携上の役割が異なる一宮市立市民病院・海南病院・名古屋第一病院・名古屋第二病院・市立四日市病院・岐阜県立多治見病院・岐阜市民病院・岡山市立市民病院では、病々連携についての知見を深めることが可能です。リサーチマインドを求める場合は、名古屋大学医学部附属病

院・愛知医科大学医学部附属病院・岐阜大学医学部附属病院、大阪医科大学病院での研修を選択することもできます。全ての病院が直接あるいは大学の医局を通して、症例や人事の交流のある病院であり、連携についての支障はありません。

1.1. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準16】

					病歴提出 ↓	筆記試験 ↓
医師国家試験	初期臨床研修		内科専門研修（subspecialty 研修と並行）			
			基幹施設（6科ローテーション） 総合内科外来	基幹施設	連携施設	
卒前	卒後1年	卒後2年	卒後3年	卒後4年	卒後5年	卒後6年

図1. 大垣市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である大垣市民病院内科で専門研修（専攻医）1年目、2年目の2年間、連携施設で専門研修（専攻医）3年目の1年間、専門研修を行います（逆に連携施設2年間＋基幹施設1年間もあり）。専攻医2年目の夏までに専攻医の希望・将来像、研修到達度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。（図1）。また、2年相当の subspecialty 研修を並行して行います。

1.2. 専攻医の評価時期と方法【整備基準17、19～22】

(1) 大垣市民病院臨床研修センターの役割

- ・大垣市民病院内科専門研修管理委員会の事務局業務を行います。
- ・大垣市民病院専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに研修手帳 web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学士、事務職員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性。コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の異なる職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・指導医業務の援助を積極的に行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が大垣市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定

されます。

- ・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

- ・専攻医は、1 年目の専門研修修了時には研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群以上の経験と登録を行うようにします。2 年目の専門研修修了時には 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上の症例を経験し J-OSLER に登録を行うようにします。3 年目の専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上を経験し登録します。それぞれの年次で登録された内容は都度、指導医が評価し、承認します。

- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

- ・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

- ・研修センターは各担当指導医を積極的にバックアップし、専攻医の進捗のチェックや症例経験の調整・病歴要約作成の督促などを担当指導医とともに行います。そのため、事務担当として研修センターに医師 1 名・事務 1 名を配置します。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設または連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果は年度ごとに大垣市民病院内科専門研修管理委員会で検討され、統括責任者が最終承認を行います。

(4) 修了判定基準【整備基準 5 3】

1) 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下 i) ～vi) の修了を確認します。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上の（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録を済ませること（P. 41 別表 1 「大垣市民病院 疾患群 症例 病歴要約到達目標」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC の受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があること

2) 大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修評価（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。

なお、「大垣市民病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 4 4】（P. 33）と「大垣市民病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 4 5】（P. 39）とを別に示します。

1 3. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 3 4、3 5、3 7－3 9】

(P. 32「大垣市民病院内科専門研修管理委員会」参照)

1) 大垣市民病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医）、事務局代表者、内科 subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医が委員会会議の一部に参加します（P. 32「大垣市民病院内科専門研修管理委員会」参照）。大垣市民病院内科専門研修管理委員会の事務局を、大垣市民病院臨床研修センターにおきます。

ii) 大垣市民病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する大垣市民病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、大垣市民病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

①前年度の診療実績

a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e) 1 か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③前年度の学術活動

a) 学会発表、b) 論文発表

④施設状況

a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する講習会、j) JMECC の開催

⑤Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

1 4. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 1 8、4 3】

指導法の標準化のため厚生労働省が実施する指導医講習会の受講が推奨される。

指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

1 5. 専攻医の就業環境の整備機能（労働管理）【整備基準 4 0】

労働基準法や医療法を遵守します。

大垣市民病院での研修中は、大垣市民病院の就業環境に、連携施設での研修中は連携施設の就業環境に基づき、就業します。（P. 16「大垣市民病院内科専門研修施設群」参照）

2024 年より医師の働き方改革が始まったこととともない、専攻医のみならず指導医の労働環境についても配慮します。

基幹施設である大垣市民病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・大垣市民病院正規職員として労働環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する精神神経科医師が在籍しています。
- ・ハラスメント対策委員会が設置されており、大垣市民病院内に担当者（庶務課長）が常駐しています。
- ・女性専攻医向けの安全な休憩室・更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P. 16「大垣市民病院内科専門研修施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

1 6．内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 4 8～5 1】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を利用して無記名式の逆評価を実施します。逆評価は年に複数回実施します。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合は、研修施設ごとに逆評価を行い、その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧可能です。また集計結果に基づき、大垣市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ①即時改善を要する事項
- ②年度内に改善を要する事項
- ③長期的に改善を要する事項。
- ④内科領域全体で改善を要する事項

⑥ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会を専攻医や指導医からの相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし、大垣市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して大垣市民病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医、各施設の内科研修委員会、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

大垣市民病院臨床研修センターと大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は、大垣市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて大垣市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います。大垣市民病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

1 7．専攻医の募集および採用の方法【整備基準 5 2】

本プログラム管理委員会は website での公表や説明会を行い、内科専攻医を募集します（時期は専門医

機構の発表に準じます)。翌年度のプログラムへの応募者は、大垣市民病院臨床研修センターの website 大垣市民病院医師募集要項（大垣市民病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します（時期は専門医機構の発表に準じます）。書類選考および面接を行い、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します（時期は専門医機構の発表に準じます）。

（問い合わせ先）大垣市民病院臨床研修センター E-mail rinkens@omh.ogaki.gifu.jp HP <http://www.ogaki-mh.jp/kensyu/> 大垣市民病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

1 8. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 5 3】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて大垣市民病院内科専門医研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修も認めます。他の内科専門研修プログラムから大垣市民病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から大垣市民病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を始める場合、あるいは臨床研修制度における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに大垣市民病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録をみとめます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 4 か月以内であれば、研修期間の延長は不要です。それを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。週 31 時間未満の勤務時間となる場合は、時短勤務の扱いとなるが、これについては別途、用意された『内科領域カリキュラム制(単位制)による研修制度』を適用することで、研修期間として換算することができます。ただし、週 31 時間以上のフルタイムで勤務を行なった場合と比べ、有効な研修期間は短くなります。

大垣市民病院内科専門研修施設群

（地方型一般病院のモデルプログラム）

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間 + 連携施設 1 年間 逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もあり）

					病歴提出 ↓	筆記試験 ↓
医師国家試験	初期臨床研修		内科専門研修（subspecialty 研修と並行）			
			基幹施設(6 科ローテーション) 総合内科外来	基幹施設	連携施設	
卒前	卒後 1 年	卒後 2 年	卒後 3 年	卒後 4 年	卒後 5 年	卒後 6 年

図 1. 大垣市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

大垣市民病院内科専門研修施設群研修施設

表 1 各研修施設群の概要

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	大垣市民病院	817	277	7	19	22	8
連携施設	名古屋大学医学部附属病院	1020	211	9	81	112	9
連携施設	岐阜大学医学部附属病院	604	165	5	33	30	13
連携施設	愛知医科大学医学部附属病院	900	846	11	84	52	10
連携施設	一宮市立市民病院	594	242	8	26	15	4
連携施設	海南病院	540	241	13	29	30	7
連携施設	市立四日市病院	537	217	8	12	12	1
連携施設	名古屋第一病院	852	不定	7	24	23	16
連携施設	名古屋第二病院	801	299	8	20	30	7
連携施設	岐阜県立多治見病院	553	212	8	13	24	9
連携施設	岐阜市民病院	565	229	8	31	22	15
連携施設	稲沢市民病院	320	105	4	7	8	1
連携施設	揖斐厚生病院	281	113	2	6	6	1
連携施設	総合大雄会病院	376	99	8	16	12	6
連携施設	久美愛厚生病院	300	142	4	9	4	2
連携施設	土岐市立総合病院	350	182	7	3	1	1
連携施設	東濃厚生病院	270	159	5	4	3	1
連携施設	東海中央病院	332	180	8	11	7	3
連携施設	岡山市立市民病院	400	200	12	23	23	10
連携施設	飛騨市民病院	81	45	5	1	2	0
連携施設	大阪医科薬科大学病院	894	302	9	50	55	11

表 2 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛知医科大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一宮市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海南病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立四日市病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜県立多治見病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋第一病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
名古屋第二病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
揖斐厚生病院	×	○	○	○	○	○	○	△	△	△	×	○	×
稲沢市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合大雄会病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○
久美愛厚生病院	○	○	○	△	△	○	○	△	△	×	×	○	△
土岐市立総合病院	○	×	△	△	△	○	△	○	△	○	○	○	○
東濃厚生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

東海中央病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
岡山市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飛騨市民病院	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○	○
大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○、△、×)に評価しました。

(○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない)

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

P.10「9. 地域医療における施設群の役割」を参照してください。

専門研修施設（連携施設）の選択

・専攻医 2 年目の夏までに専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。

・専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（図 1）。

具体的には西濃医療圏での地域密着型病院として揖斐厚生病院があり、西濃地区における地域医療の在り方について学ぶ事ができます。また西濃医療圏に限らず、他の東海医療圏の地域密着型病院として稲沢市民病院・総合大雄会病院・土岐総合病院・東濃厚生病院・東海中央病院・久美愛厚生病院、飛騨市民病院があり、この地域とは違った環境での地域医療を学ぶ事ができます。また、当院と同規模でありながら、地域が異なるため各病院との連携上の役割が異なる一宮市立市民病院・海南病院・名古屋第一病院・名古屋第二病院・市立四日市病院・岐阜県立多治見病院・岐阜市民病院では、病々連携についての知見を深めることが可能です。リサーチマインドを求める場合は、名古屋大学医学部附属病院・愛知医科大学医学部附属病院・岐阜大学医学部附属病院、大阪医科薬科大学病院での研修を選択することもできます。全ての病院が直接あるいは大学の医局を通して、症例や人事の交流のある病院であり、連携についての支障はありません。

逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もという研修もあります。

また、2 年相当の subspecialty 研修を並行して行います。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

岐阜県西濃医療圏と東海医療圏の医療機関から構成しています。連携施設の多くが車で約 60 分の移動時間であり、移動や連携に支障を来す可能性は低いです。

1) 専門研修基幹施設

大垣市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスメント対策委員会が設置されており病院内に担当者（庶務課長）が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管

2) 専門研修プログラムの環境	理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス 2024 年度実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の全疾患群が研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 9 体、2023 年度 4 体、2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し開催（2024 年度実績 7 回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	傍島裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の中核病院で、救急医療が盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（ http://www.ogaki-mh.jp ）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者 15,431 名（1 ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者 8,649 名（1 ヶ月平均 延べ） 内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・

療・診療連携	病々連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2) 専門研修連携施設

名古屋大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 医員として労務環境が保障されます。 ・ メンタルヘルスに適切に対処します。 ・ ハラスメントに適切に対処します。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】	・ 指導医が 81 名在籍しています（下記）。

2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 4 回)
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	川嶋啓揮 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は名大病院基幹プログラムを作成しています。一度病態内科のホームページ(https://www.med.nagoya-u.ac.jp/naika/)をご覧くださいと思います。名古屋大学の内科専門医育成の考え方を理解いただけたらと考えています。施設カテゴリーでは、“アカデミア”と呼ばれるものに分類されることが多いです。名大病院へ異動を行なう研修を行なうメリットは、【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】ができることだと思います。平成 28 年 1 月に名大病院は「臨床研究中核病院」に認定されました。皆さんが初期研修・内科専攻医研修期間の臨床経験から芽生えた臨床的課題を解決する方法を、この【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】からイメージをつかんでもらえるとよいと考えています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合専門医 112 名、日本消化器病学会専門医 54 名、日本循環器学会専門医 36 名、日本内分泌学会専門医 15 名、日本糖尿病学会専門医 14 名、日本腎臓病学会専門医 32 名、日本呼吸器学会専門医 28 名、日本血液学会専門医 25 名、日本神経学会専門医 23 名、日本アレルギー学会専門医 4 名、日本老年医学会専門医 10 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 42,675 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 25,947 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設

	日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医制度認定研修教育施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	--

岐阜大学医学部付属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、更衣室、シャワー室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医、総合内科専門医が 59 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全・感染対策講習会を定期的に開催。 （2024 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回） 各専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野すべての領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 20 演題）をしています。
指導責任者	清水 雅仁 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜地域の『最後の砦』として当院のスタッフは一丸となって診療にあつたています。他の病院では経験できないような非常に難治性の疾患や他領域にまたがる複雑な疾患、稀少疾患など極めて多様性に富む症例を多数経験し、最先端の診断、治療を学ぶことができます。subspeciality 領域の学会専門医も多数在籍しており、希望する subspeciality 領域の研修にも柔軟に対応できます。各種学会、研究会への参加、論文執筆などの学術活動にも積極的に取り組んでいます。さらに基礎研究や臨床研究に携わる研究者や大学院生との交流を通じ、臨床医としてだけではなく、研究者としての科学的な目を養うことができます。 generalist, specialist として研鑽を続ける、大学院に入学するなど今後どのよう

	なキャリア形成を目指していくかにかかわらず、岐阜大学医学部附属病院での研修で得られた貴重な経験は必ず役に立つと思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本肝臓学会専門医 9 名、日本消化器学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 13 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学学会救急科専門医 0 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,069 名(1 ヶ月平均) 入院患者 4,907 名(1 ヶ月平均) <内科領域のみ>
経験できる疾患群	13 領域のうちのほぼ全領域を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く学ぶことが出来ます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応したがん患者の診断、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験出来ます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 ・研修に必要な医学情報センター（図書館）があり，文献検索や電子ジャーナルの利用が 24 時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 ・専攻医は，愛知医科大学病院 助教（専修医）として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止委員会が設置されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 ・敷地内に保育所『アイキッズ』があり，給食対応の実施を行っており，利用が可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 84 名在籍しています（下記）。 ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2022 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野の全てで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表（2022 年度実績：10 演題：専修医発表のみ）をしています。
指導責任者	氏名：高見昭良 【専攻医へのメッセージ】 愛知医科大学病院内科は、消化管、肝胆膵、循環器、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓・リウマチ膠原病、呼吸器・アレルギー、神経、血液の 9 診療科とプライマリケアセンターを担当する総合診療科で構成されています。一般診療から高度な専門医療まで 84 名の指導医を中心に研修を行っており、「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例は全て網羅することができます。専門医取得や大学院進学もシームレスに行うことができる環境です。学会発表はもちろん、臨床研究および基礎研究の双方を行う環境も整備されています。最新の設備と充実した指導医の下で、内科専門医の第一歩をスタートしましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 84 名，日本内科学会総合内科専門医 52 名 日本消化器病学会消化器専門医 26 名，日本循環器学会循環器専門医 26 名， 日本内分泌学会専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 16 名， 日本腎臓病学会専門医 15 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本血液学会血液専門医 11 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）5 名，日本リウマチ学会専門医 12 名， 日本感染症学会専門医 4 名
外来・入院患者数	外来患者 3,365 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,008 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 スtentグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心臓血管インターベンション治療学会研修施設 など

一宮市立市民病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修病院（NP0 法人卒後臨床研修評価機構認定）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準23】	・内科常勤医師は46名で総合内科専門医は15名、内科指導医は26名います（2025年4月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会があります。

2) 専門 研修プ ログラ ムの環 境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年1回当院で講習会を行っています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修管理委員会が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、一宮市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基 準 【整備 基準23/ 31】 3) 診療 経験の 環境	・カリキュラムに示された内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群が研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基 準 【整備 基準23 】 4) 学術 活動の 環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備し、臨床研究審査小委員会を定期的（年4回）に開催しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、治験審査委員会を定期的（年4回）に開催しています。 ・日本内科学会講演会、同地方会、各内科系学会に多くの学会発表をしています。
指導責 任者	伊藤宏樹 【内科専攻医へのメッセージ】 一宮市立市民病院は尾張西部医療圏の急性期医療を担う中核病院です。内科常勤医は46名で各科の指導スタッフも充実しており（内科学会指導医26名）、血液内科、脳神経内科、腎臓内科、内分泌内科も症例数が多く希少疾患も経験可能です。救急救命センターで3次救急に対応しており急性期重症患者搬送も多く高度な急性期医療が学べます。初期研修医を毎年12-15名迎えており若い先生も活躍しています。
指導医 数 （常勤 医）	日本内科学会指導医26名、日本内科学会総合内科専門医15名 日本消化器病学会専門医3名、日本循環器学会専門医9名、 日本腎臓病学会専門医2名、日本呼吸器学会専門医1名、 日本血液学会専門医4名、日本神経学会専門医3名、 日本内分泌学会専門医4名、日本糖尿病学会専門医4名、
外来・ 入院患 者数	外来患者延数297183名 年間入院患者167448名（2024年）
経験で きる疾 患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験で きる技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

術・技能	
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床神経生理学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会集中医療専門医研修認定施設 など

海南病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 29 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P C を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024 年度実績 7 回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024 年度実績 11 回）
認定基準 【整備基準 24】	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症

3) 診療経験の環境	および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 4 演題)
指導責任者	鈴木 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 海南病院は、愛知県西部に位置し、木曽川を挟んだ三重県や岐阜県境も医療圏とした地域完結型の基幹病院です。救命救急センター、ドクターカー、ヘリポート、ICU、CCUを備え、320 列マルチスライス CT、3.0 テスラ MRI、手術支援ロボット「da Vinci」等も有する高度急性期病院でありながら、がん拠点病院として緩和ケア病棟も有し、老年内科を中心に在宅医療を早くから展開し、訪問看護ステーションも併設しており、地域に根差した幅広い研修が可能です。内科各診療科の指導体制も整っており、Common disease から専門性の高い稀少疾患まで経験することができ、全般的な内科研修から将来的な各内科 Subspeciality の修得が可能です。職員は「和を大切に心ある医療を」の海南精神のもと、たいへん協調的で働きやすい環境となっています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 29 名 日本内科学会総合内科専門医 30 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本循環器学会専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 4 名 日本血液学会専門医 2 名 日本神経学会専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 感染症専門医 1 名 日本救急医学会専門医 5 名
外来・入院患者数	外来患者 1,197 名 (1 日平均) 入院患者 504 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設

	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 スtentグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	--

市立四日市病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤の任期付正職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 3 回、2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回) ・研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024 年度実績 1 回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 5 体、2023 年度 6 体、2024 年度 1 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	・倫理委員会を定期的に行います。(2022 年度 1 回、2023 年度 1 回、2024 年度 1 回) ・治験管理室を設置し、定期的に行験審査委員会を開催（2024 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行うようにします。
指導責任者	渡邊 純二（副院長）
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名

	日本アレルギー学会専門医（内科）1名 日本リウマチ学会専門医0名 日本感染症学会専門医0名 日本救急医学会救急科専門医0名
外来・入院患者数	外来患者 11,611名（1ヶ月平均）入院患者 5,549名（1ヶ月平均）※2024年度 内科
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患 群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づ きながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病 連携なども経験できます。
学会認定施設（内 科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）実施施設 日本血液学会認定血液研修施設 など

岐阜県立多治見病院

専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
--------	------------------------

	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岐阜県立多治見病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科部長が担当）があります。 ・ハラスメント対策委員会は、要請に応じて幹部会が開催します。また、暴言、暴力などに対しては、医事課、警備部門が対処します。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です（条件あり）。
専門研修プログラムの環境	・指導医は13名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催（2023年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2023年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：尾張北部医療圏緩和ケア病棟連絡会議、東濃循環器研究会（オリベの会）、東濃地域連携パス合同委員会、多治見市糖尿病病診連携の会、東濃地区ICT活動研究会、東濃医学会学術集会） ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度開催実績1回：受講者6名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績9体）を行っています。
学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2023年度実績9回）しています。また、臨床研究に関しては、25件を審議し承認しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者とアピール	日比野 剛 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜県立多治見病院は、岐阜県東濃医療圏の中心的な急性期病院であり、東濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導者数	日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 24名、日本消化器病学会消化器病専門医 7名、日本循環器学会循環器専門医 6名、日本腎臓学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6名、日本神経学会神経内科専門医 2名、日本血液学会血液専門医 5名、

	日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）3名、 日本救急医学会救急科専門医 2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者（延べ） 21,411名（1ヶ月平均 2023年度実績） 入院患者（延べ） 11,585名（1ヶ月平均 2023年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会新専門医制度基幹施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会連携研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 ほか

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型臨床研修病院、協力型臨床研修病院、NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定病院です。 ・研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・専攻医、指導医には適切な労務環境が保証されています。 ・メンタルヘルス相談室の設置、精神科リエゾンチームの活動等メンタルストレスに対処できる体制が取られています。 ・ハラスメントに対処する部署が整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等に配慮されています。 ・敷地内に院内保育があります。
専門研修プログラムの環境	・指導医が26名在籍しています。 ・専門研修管理委員会、内科専門研修プログラム管理委員会を院内に設置し、関連施設との連携を図っています。 ・内科研修委員会は施設内で研修する専攻医の研修の進捗状況を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図っています。 ・各委員会の事務局は教育研修管理課におき、専攻医の全体的管理をおこないます。 ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会・研修会を定期的に行い、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全5回、感染対策3回） ・基本領域専門医の認定および更新にかかる共通講習を定期的に行い、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、医療経済0回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024 年度実績 9 回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対応可能です。												
診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）のうち総合内科および膠原病を除く 11 分野（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 17 件）を行っています。												
学術活動の環境	・倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。												
指導責任者とアピール	後藤 洋二 《内科専攻医へのメッセージ》 当院ではごく希少な疾患を除き、内科学会で研修目標とする 67 分野、200 症例以外にも内科全領域の疾患を幅広く経験する事ができます。豊富な臨床経験を持つ指導医のもとで基礎的な疾患から、高度な知識や技術を必要とする疾患まで診断と治療技術を学ぶ事ができます。造血細胞移植センターを持つ血液内科では国内有数の数を誇る骨髄移植、循環器内科では心臓外科ともタイアップしたインターベンション治療、消化器内科では ESD を始めとする高度な内視鏡治療技術、拡大内視鏡を用いた精査な内視鏡診断を学ぶ事ができます。呼吸器内科では肺癌を始めとする化学療法、急性期の呼吸管理、気管支鏡による最先端の診断治療を学ぶことができます。脳神経内科では脳卒中急性期医療および神経変性疾患などの多数の神経内科疾患も幅広く経験できます。腎臓内科では腎疾患のみでなく、数多くの膠原病症例も経験できます。その他の内科各分野でも最先端の診断、治療技術を経験できます。3 次救命救急センターを持ち、内科各分野を始めとする、高度な救急医療を経験する事ができます。災害救護にも豊富な経験を持っています。栄養サポートチーム、院内感染対策チーム、呼吸器・モニター管理チーム、緩和ケアチーム等、多職種からなるチーム医療にも積極的に参加することができます。												
指導者数	日本内科学会指導医 26 名、総合内科専門医 25 名 <table border="0"> <tr> <td>日本消化器病学会専門医 6 名</td> <td>日本循環器学会専門医 7 名</td> </tr> <tr> <td>日本内分泌学会専門医 2 名</td> <td>日本糖尿病学会専門医 2 名</td> </tr> <tr> <td>日本腎臓学会専門医 2 名</td> <td>日本呼吸器学会専門医 4 名</td> </tr> <tr> <td>日本血液学会専門医 6 名</td> <td>日本神経学会専門医 3 名</td> </tr> <tr> <td>日本アレルギー学会専門医 2 名</td> <td>日本感染症学会専門医 1 名</td> </tr> <tr> <td>日本救急医学会専門医 4 名</td> <td>ほか</td> </tr> </table>	日本消化器病学会専門医 6 名	日本循環器学会専門医 7 名	日本内分泌学会専門医 2 名	日本糖尿病学会専門医 2 名	日本腎臓学会専門医 2 名	日本呼吸器学会専門医 4 名	日本血液学会専門医 6 名	日本神経学会専門医 3 名	日本アレルギー学会専門医 2 名	日本感染症学会専門医 1 名	日本救急医学会専門医 4 名	ほか
日本消化器病学会専門医 6 名	日本循環器学会専門医 7 名												
日本内分泌学会専門医 2 名	日本糖尿病学会専門医 2 名												
日本腎臓学会専門医 2 名	日本呼吸器学会専門医 4 名												
日本血液学会専門医 6 名	日本神経学会専門医 3 名												
日本アレルギー学会専門医 2 名	日本感染症学会専門医 1 名												
日本救急医学会専門医 4 名	ほか												
外来・入院患者数	外来患者数 28,770 名（1 ヶ月平均） 入院患者数 20,478 名（1 ヶ月平均）												
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。												
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。												
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども体験できます。												
学会認定施設	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍研修施設												

	公益財団法人日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設 日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 日本血液学会新専門医制度専門研修認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本てんかん学会研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院、一次脳卒中センター 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術施設基準 日本不整脈心電学会パルスフィールドアブレーション〔PulseSelect〕 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会実地修練認定教育施設（NST 専門療法士認定教育施設） 日本肝臓学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本超音波医学会専門医研修連携施設→専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設
--	--

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康対策室）があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
専門研修プログラムの環境	・指導医が 20 名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野・70 疾患群のうちほぼ全疾患群が研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者とアピール	内科プログラム責任者 東 慶成（あずま よしのり） 【内科専攻医へのメッセージ】 日赤愛知名古屋第二病院は、名古屋市東部地域の中心的急性期総合病院です。救急・急性期医療と先進医療がバランスよく組み合わされているため、common disease の急性期の症例に加え、多彩な疾患に対する先進的な治療が経験できます。 また、診断の難しいチャレンジングな症例も数多く集まり診断推論の能力が身につきます。
指導者数	日本内科学会指導医 20 名 日本内科学会総合内科専門医 30 名 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名
外来・入院患者数	外来患者 22,459 名（1 ヶ月平均実数），入院患者 1,954 名（1 ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本感染症学会連携研修施設 胸部ステントグラフト実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本アフレス学会認定施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本消化器学会専門医制度指定修練施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医修練施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定医制度教育施設

	日本腎臓学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
--	--

揖斐厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ・ 女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は5名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績 医療安全2回、感染対策2回） ・ 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績1回） ・ 地域参加型のカンファレンスについて、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示された内科領域13分野のうち、総合内科、膠原病、救急を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギーおよび感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70疾患群のうち49疾患群が研修可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検（2019年度1体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2019年度実績有り）
指導責任者	塚本達夫 【内科専攻医へのメッセージ】 揖斐厚生病院は西濃医療圏に位置し、西濃北部地域の中核病院として急性期・回復期並びに慢性期までの基礎的、専門的な医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じ、社会的背景・療養環境調整をも包括する医療を実践できる内科専門医になります。急性期医療にとどまらず、がん患者の診断・治療・緩和ケア・終末期医療などを通じ、地域に根ざした医療や病診連携・病病連携等が経験できます。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本消化器病学会指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 9,494 名 (1 ヶ月平均)、入院患者 5,900 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内視鏡学会指導連携施設 など

稲沢市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 7 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) ・ 研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015 年度実績 3 回)
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群の全疾患群が研修可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検 (2013 年度 10 体、2014 年度 1 体) を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	坂田豊博 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は内科医師の総数は 10 人と少ないですが、指導医が 109 名とその割合が高く、研修医の人数も少ないため、十分な指導を受けることができるのが特徴です。消化器内科は症例数に対する専門医の数が比較的少ないため、内視鏡手技や治療に接する機会が多く、多くの症例を経験することが可能です。老年内科が加

	わり、また訪問看護ステーションを立ち上げ在宅・地域医療に重点をおいた総合内科的な研修を行うことができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 4339 名 (1 ヶ月平均)、入院患者-159 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

総合大雄会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人大雄会常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています (下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2024 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催 (2024 年度予定) し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2024 年度実績 6 回) し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (2024 年度実績 13 回) を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講 (2024 年度開催実績 1 回) を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

	・特別連携施設（泰玄会病院）の専門研修では、電話や週1回の総合大雄会病院での面談・カンファレンスなどにより基幹施設に所属する指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）が研修可能です（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2024年6体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績3回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年実績3演題）をしています。
指導責任者	寺沢彰浩 【内科専攻医へのメッセージ】 愛知県尾張西部医療圏の三次救急病院、地域支援病院として地域医療に貢献する当院では、救急医療、急性期医療から慢性期医療と幅広く診療経験を積むことができます。また、近接する同一法人施設である大雄会第一病院および大雄会クリニックと合わせた3施設で一体となった研修を行い、地域に密着した医療を通じて内科専門医としての素養を身につけます。内科専門専攻医の希望に合わせフレキシブルな研修が行えるよう配慮し、経験豊富な上級医の指導のもと内科専門研修に必要なかつ十分な経験ができる体制を構築しております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科または内科専門医12名、日本消化器病学会専門医1名、日本循環器学会専門医7名、日本糖尿病学会専門医3名、日本呼吸器学会専門医3名、日本血液学会専門医1名、日本腎臓学会専門医1名、日本神経学会専門医2名、日本救急医学会専門医4名
外来・入院患者数	外来延べ患者 6136名（1ヶ月平均）入院延べ患者 3596名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

久美愛厚生病院

認定基準 【整備基準 23】	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 久美愛厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。
-------------------	--

1) 専攻医の環境	メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ハラスメントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。 女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 院内に保育所「あいりすルームたかやま」があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 9 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長兼内科部長 横山敏之 【内科専攻医へのメッセージ】 飛騨地域において急性期から慢性期までの総合的な診療を行っています。また、循環器内科は、地域で唯一、急性期インターベンションが行える施設です。他、消化器、呼吸器、腎臓内科が常勤です。内科の地域医療について研修できます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者（新規・延べ）9,561 名（1 ヶ月平均） 入院患者（新規・延べ）5,247 名（1 ヶ月平均）
病床	300 床<一般 216 床、地域包括ケア 49 床、緩和ケア 23 床、結核 8 床、感染 4 床>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、付随する緩和ケア治療、終末期医療についても経験できます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。住民健診や保健指導など地域の健康維持に関わる活動ができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
異動を伴う研修を	当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、

行なった場合の研修の魅力	予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟もあり、幅広い医療の研修が可能です。 内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、6カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察に出張していただく場合があります。
--------------	---

土岐市立総合病院 ※令和8年2月より 公立東濃中部医療センターとなります。

1)専攻医の環境	・令和8年2月に、当院と東濃厚生病院が統合し、『公立東濃中部医療センター』として新病院が開院します。 ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療安全2回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・CPCを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績2回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 感染拡大防止の為未開催）
3)診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域13分野のうち、腎臓、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	村山 慎一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 ・一般内科医として、各サブスペシャリティ領域を横断的に経験する形です。 未経験疾患群については優先的に主治医になっていただくことで必要症例数を経験することができます。また、稀な疾患を経験する可能性が生まれます。 ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で、毎年約5名の初期臨床研修医を迎えています。

	・医療安全、感染防止がしっかりしており、メンタルヘルス担当の精神科医がいます。 ・回復期リハビリテーション病棟、健診業務を経験できます。 ・高次急性期医療として、脳卒中センターがあり、脳卒中急性期患者を毎日受け入れています。 ・医師事務作業補助者が多く（20 対 1）、雑務が比較的少ないです。 ・土岐市というまとまった地域のただ一つの中核病院であるためプライマリケアから重症疾患までさまざまな症例を経験できます。 ・神経疾患については、急性期脳血管障害から変性疾患のような慢性疾患を経験できます。 ・CT、MRI が各 2 台あるため、画像診断を待つことなく行うことができます。
指導医など（常勤医） （2024 年 3 月末現在）	日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数（年間） （2024 年度実績）	外来患者 4,241 名（1 ヶ月平均） 入院患者 3,024 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会認定研修施設

東濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い（2023 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P C を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 6 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 1 演題)
指導責任者	長屋寿彦 【内科専攻医へのメッセージ】 東濃厚生病院は、岐阜県瑞浪市（人口 4 万人）にある、地域の中核病院として救急医療、予防医療など、幅広い症例を経験できます。大垣市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 ほか。
外来・入院 患者数	内科外来患者平均（新規・延べ）543 名・4,897 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者平均（新規・延べ 142 名・2,252 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医認定制度施設 日本消化器科内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器がん学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本がん治療認定医療機構研修施設

東海中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 東海中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 11 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・ 各務原消防本部との救急時ご検討会を定期的開催（月 1 回）し、市と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	小島克之 【内科専攻医へのメッセージ】 東海中央病院は岐阜県各務原市（人口約 15 万人）にある、市内唯一の急性期の病院であるため幅広い症例を経験できます。 大垣市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均） 入院患者 7,263 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設

岐阜市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岐阜市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（岐阜市役所職員厚生課）があります。 ・ハラスメント対策委員会が岐阜市役所に整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が 31 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理部会（統括責任者（診療科部長）、統括副責任者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。

	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（市民公開講座；2023 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群が研修可能です（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 14 体、2022 年度 17 体、2023 年度 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表（2023 年実績 2 演題）をしています。
指導責任者	杉山 昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜市民病院は、岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であり、岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本老年医学会専門医 4 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 25,123 名（1 ヶ月平均） 入院患者 13,477 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本内科学会認定医制度教育病院、

	日本リウマチ学会教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会准教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本カプセル内視鏡学会認定指導施設、日本血液学会血液研修施設、日本輸血・細胞治療学会認定・臨床輸血看護師制度指定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設
--	--

岡山市立総合医療センター 岡山市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・後期研修医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専門医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 26 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（内科主任部長、総合内科専門医および指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床教育研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（web 開催含む）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2023 年度実績 2 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（岡山市立市民病院病診連携研修会（3S 会、3 回）を定期的開催し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2023 年度当院開催 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床教育研修センターが対応します。 ・特別連携施設群（光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院、玉野市立玉野市民病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、備前市国民健康保険市立吉永病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人東浩会石川病院、総合病院岡山病院玉野分院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑社会金田病院、特定医療法人中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、倉敷成人病センター）は岡山県内の中小自治体病院を主体に形成されており、特別連携施設の専門研修では、電話（またはインターネット電話）や週 1 回の岡山市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより基幹施設に所属する指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準	・カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分

【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	泌、代謝、腎臓、総合内科、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）． ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）が研修可能です（上記）． ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体）を行っています．
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています． ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 10 回）しています． ・治験センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 10 回）しています． ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 3 演題）をしています．
指導責任者	洲脇 俊充 【内科専門医へのメッセージ】 岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）であり、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します． 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,926 人（1 ヶ月平均） 入院患者 6,154 人（1 ヶ月平均延数） （新規入院患者 411.3 人（1 ヶ月平均））（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本リウマチ学会専門医制度教育施設・新リウマチ専門研修認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器外科学会認定専門医制度指定修練施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

	日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本癌治療学会がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 2 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本神経学会認定専門医制度准教育施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定 など
--	---

国民健康保険 飛騨市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 (メディカルオンライン・今日の診療・医中誌Web・UpToDate) シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が1名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度実績 医療倫理0回、医療安全2回、感染対策2回) 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度実績0回) 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024 年度実績 2 回)
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	工藤 浩 (副病院長兼第 I 診療部長) 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では、内科医にとって必要なプライマリ・ケアにおける幅広い診療の知識を学ぶことが可能です。救急外来での急性期疾患のみならず、慢性疾患、緩和ケア、訪問診療、在宅看取りなど地域医療におけるオールラウンドな病院です。多くの研修医、学生も実習にきており、互いに教え合い、学びを得ることで日々成長することができる病院です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名 日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 1名 日本専門医機構総合診療専門医1名、指導医1名 日本内科学会総合内科専門医1名 日本消化器病学会消化器病指導医1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2名、 指導医1名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医2名 日本老年医学会指導医 1 名、 日本地域医療学会指導医 2 名

外来・入院患者数	外来患者 4,663 名（1 カ月平均） 入院患者 1,631 名（1 カ月平均） 延数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 プライマリ・ケアの症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医及び総合診療医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した一般外来、救急診療、緩和ケア、終末期医療、訪問診療などを通じ、地域に根ざした地域包括ケアや病診連携・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本地域医療学会地域総合診療専門医「専門研修プログラム」研修基幹施設

大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪医科薬科大学病院レジデントとして勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 50 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2024 年度実績 医療安全 7 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 1 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	今川彰久 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪医科薬科大学病院は、大阪府と京都との間に位置する三島医療圏に属し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは大垣市民病院と連携して内科医を育成することを目的とし、特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ本プログラムにご参加ください。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 50 名、日本内科学会総合内科専門医 55 名、日本消化器病学会消化器専門医 24 名、日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、

	日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本リウマチ学会専門医13名，日本感染症学会専門医2名，日本救急医学会救急科専門医2名，ほか
外来・入院患者数	外来患者12,657名（1ヶ月平均） 入院患者7,984名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会

<大垣市民病院>

傍島 裕司（プログラム統括責任者、委員長、内分泌・代謝・腎臓分野責任者、総合内科・膠原病・

救急分野責任者、糖尿病・腎臓内科副院長)

森島 逸郎 (プログラム管理者、副委員長、循環器内科分野責任者、循環器内科副院長)

安部 崇 (呼吸器・アレルギー・感染分野責任者、呼吸器内科部長)

小杉 浩史 (血液分野責任者、血液内科部長)

三輪 茂 (神経分野責任者、神経内科部長)

小西 丘悟 (事務局 庶務課 事務担当)

<連携施設担当委員>

名古屋大学医学部附属病院	岩間 信太郎
岐阜大学医学部附属病院	今井 健二
愛知医科大学医学部附属病院	坂本 和賢
一宮市立市民病院	新田 華代
海南病院	鈴木 聡
市立四日市病院	渡邊 純二
県立多治見病院	日比野 剛
名古屋第一病院	尾崎 信曉
名古屋第二病院	東 慶成
稲沢市民病院	坂田 豊博
揖斐厚生病院	水草 貴久
総合大雄会病院	寺沢 彰浩
久美愛厚生病院	横山 敏之
土岐市立総合病院	村山 慎一郎
東濃厚生病院	塚本 英人
東海中央病院	小島 克之
岐阜市民病院	杉山 昭彦
飛騨市民病院	工藤 浩

<オブザーバー>

内科専攻医代表 1

内科専攻医代表 2

大垣市民病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

①地域医療における内科領域の診療医 (かかりつけ医)

②内科系救急医療の専門医

③病院での総合内科 (generality) の専門医

④総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

大垣市民病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、岐阜県西濃医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

大垣市民病院内科専門研修プログラム終了後には、大垣市民病院内科専門研修施設群だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務します。または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

					病歴提出 ↓	筆記試験 ↓
医師国家試験	初期臨床研修		内科専門研修 (subspecialty 研修と並行)			
			基幹施設 (6 科ローテーション 総合内科外来)	基幹施設	連携施設	
卒前	卒後 1 年	卒後 2 年	卒後 3 年	卒後 4 年	卒後 5 年	卒後 6 年

図 1. 大垣市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である大垣市民病院内科で専門研修（専攻医）1 年目、2 年目の 2 年間、連携施設で専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間専門研修を行います（逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もあり）。

3) 研修施設群の各施設名（P. 16「大垣市民病院研修施設群」参照）

基幹施設： 大垣市民病院
 連携施設： 名古屋大学医学部附属病院
 岐阜大学医学部附属病院
 愛知医科大学医学部附属病院
 一宮市立市民病院
 海南病院
 市立四日市病院
 岐阜県立多治見病院
 名古屋第一病院
 名古屋第二病院
 稲沢市民病院
 揖斐厚生病院
 総合大雄会病院
 久美愛厚生病院
 土岐総合病院
 東濃厚生病院
 東海中央病院

岐阜市民病院
飛騨市民病院
大阪医科薬科大学

4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 32「大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名

谷川 誠（消化器内科部長）
久永 康宏（消化器内科部長）
豊田 秀徳（消化器内科病院長）
北畠 秀介（消化器内科部長）
安部 崇（呼吸器内科部長）
中島 治典（呼吸器内科部長）
森島 逸郎（循環器内科副院長）
森田 康弘（循環器内科部長）
渡邊 直樹（循環器内科医長）
傍島 裕司（糖尿病・腎臓内科副院長）
大橋 徳巳（糖尿病・腎臓内科部長）
藤谷 淳（糖尿病・腎臓内科医長）
永田 高信（糖尿病・腎臓内科医長）
小杉 浩史（血液内科部長）
新美 圭子（血液内科医長）
高木 雄介（血液内科医長）
三輪 茂（神経内科部長）

5) 下記施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。3 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もあり）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である大垣市民病院診療科別診療実績を以下の表に示します。大垣市民病院は地域基幹病院であり、common disease を中心に診療しています。

2024 年度実績	入院延患者数(人／年)	外来延患者数(人／年)
消化器内科	21,516	45,024
呼吸器内科	23,941	31,981
循環器内科	26,341	38,715
糖尿病・腎臓内科	11,190	36,566
血液内科	10,251	13,931
神経内科	8,353	12,877
総合内科	2,198	6,080

*外来患者診療を含め、1 学年 8 名に対し十分な症例を経験可能です。

*リウマチ、感染症を除く 11 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 16「大垣市民病院内科専門研修施設群」参照）。

*剖検体数は 2022 年度 9 体、2023 年度 4 体、2024 年度 8 体です。

7) 内科専攻医は、担当指導医もしくは subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

定期的（毎週1回）に開催する各診療科のカンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

総合内科外来（初診を含む）と subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週1回、1年以上担当医として経験を積みみます。総合内科外来については、1年目の各科研修中に日を決めて研修します。救命救急センターの内科当直医として内科領域の救急診療の経験を積みみます。1か月に1～2回担当します。平日の各科救急当番・時間外の各科宅直医では研修科の救急対応を研修します。以上のような研修科における救急診療以外に希望があれば専攻医2年目以降に救命救急センターの研修を選択することができます。研修期間は最低でも1か月間とします。連携施設として当院で研修する場合にもこの研修は可能です。

各科宅直医としては病棟急変などの経験も積みみます。

必要に応じて、subspecialty 診療科検査を担当します。

希望があれば専攻医2年目以降に通院治療センターの研修を選択することができます。選択する場合、研修期間は最低でも1か月間とします。専門研修1～2年目の当院での研修では感染ラウンド・NSTラウンド・緩和ラウンドへの参加も可能です。ただし、毎日行っているものではないので、内科系各科を研修中に参加していただきます。

8) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための研修の具体的な目安

subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。

主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。専攻医1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、subspecialty 上級医の判断で5～15名程度を受持ちます。感染症、膠原病、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

専攻医1年目		専攻医2年目	専攻医3年目
(各学年とも subspecialty 研修を並行して行う)			
4月	消化器内科	希望科	連携施設
5月	消化器内科	希望科	連携施設
6月	呼吸器内科	希望科	連携施設
7月	呼吸器内科	希望科	連携施設
8月	循環器内科	希望科	連携施設
9月	循環器内科	希望科	連携施設
10月	糖尿病・腎臓内科	希望科	連携施設
11月	糖尿病・腎臓内科	希望科	連携施設
12月	血液内科	希望科	連携施設

1 月	血液内科	希望科	連携施設
2 月	神経内科	希望科	連携施設
3 月	神経内科	希望科	連携施設

＊稀少症例については研修センターで把握し、指導医間で連絡を取り合い、ローテート科に拘わらず適宜入院の主担当医になってもらいます。

9) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価の時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以上は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

10) プログラム修了の基準

①J-OSLER を用いて、以下の i) ～vi) の修了条件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P. 41 別表 1 「大垣市民病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表が筆頭者で 2 件以上あります。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。

v) 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会の受講歴が年に 2 回以上あります。

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

②当該専攻医が上記修了要件を充足していることを大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

<注意>「研修カリキュラム項目表」の知識・技術・技能習得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年 + 連携施設 1 年）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

11) 専門医申請に向けての手順

①必要な書類

i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii) 履歴書

iii) 大垣市民病院内科専門研修プログラム修了証（コピー）

②提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

12) プログラムおよび各施設での待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従います（P. 16 「大垣市民病院研修施設群」参照）。

13) プログラムの特色

①本プログラムは、岐阜県西濃医療圏の中心的な急性期病院である大垣市民病院を基幹施設として、岐阜県西濃医療圏、近隣医療圏および愛知県にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年 + 連携施設 1 年の 3 年間です。

②大垣市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③基幹施設である大垣市民病院は、岐阜県西濃医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病々連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、common disease の経験はもちろん、超高齢化社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病々連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

④基幹施設である大垣市民病院での最初の 1 年間（専攻医 1 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 41 別表 1「大垣市民病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

⑤大垣市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。連携施設での研修は 1 施設最低でも 3 か月以上とします。逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もあります。

具体的には西濃医療圏での地域密着型病院として揖斐厚生病院があり、西濃地区における地域医療の在り方について学ぶ事ができます。また西濃医療圏に限らず、他の東海医療圏の地域密着型病院として稲沢市民病院・総合大雄会病院・久美愛厚生病院・土岐市立総合病院・東濃厚生病院・東海中央病院、飛騨市民病院があり、この地域とは違った環境での地域医療を学ぶ事ができます。また、当院と同規模でありながら、地域が異なるため各病院との連携上の役割が異なる一宮市立市民病院・海南病院・市立四日市病院・岐阜県立多治見病院・名古屋第一病院・名古屋第二病院・岐阜市民病院では、病々連携についての知見を深めることが可能です。リサーチマインドを求める場合は、名古屋大学医学部附属病院・愛知医科大学医学部附属病院・岐阜大学医学部病院・大阪医科薬科大学病院での研修を選択することもできます。全ての病院が直接あるいは大学の医局を通して、症例や人事の交流のある病院であり、連携についての支障はありません。

⑥基幹施設である大垣市民病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P. 41 別表 1「大垣市民病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、J-OSLER に登録します。逆に連携施設 2 年間 + 基幹施設 1 年間もあります。

14) 継続した subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、subspecialty 診療科外来（初診を含む）、subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、subspecialty 領域の研修につながることはあります。

・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

15) 逆評価の方法とプログラム改良に向けた姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理が閲覧し、集計結果に基づき、大

垣市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立ってます。

16) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

17) その他
特になし

大垣市民病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- ・1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が大垣市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

- ・担当指導医は、専攻医がwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

- ・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。

- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳web版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はsubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とsubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるように、主担当医の割り振りを調整します。

- ・担当指導医はsubspecialtyの上級医と協議し、知識・技能の評価を行います。

- ・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

2) 専門研修の期間

- ・年次到達目標は、P. 41 別表1「大垣市民病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」「病歴提出数」について」に示すとおりです。

- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3か月ごとの研修手帳web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳web版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての査察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

3) 専門研修の期間

- ・担当指導医はsubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳web版での専攻医による症例登録の評価を行います。

- ・研修手帳web版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。

- ・主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳web版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLERの利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。

- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。

- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、J-OSLER（仮称）を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、大垣市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い方

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に大垣市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムおよび各施設における指導医の待遇

大垣市民病院給与規定によります。

8) FD（ファカルティ・ディベロップメント）講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

10) その他

全ての事項について、研修センターがサポートしますので、支障や問題があればいつでもご連絡ください。また、研修センターの方から進捗状況などご連絡を入れることがありますので、ご承知おきください。

別表1 各年次到達目標

	内容	症例数	疾患軍	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計 10 以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10 以上	5 以上	3
	循環器	10 以上	5 以上	3
	内分泌	3 以上	2 以上	3
	代謝	10 以上	3 以上	
	腎臓	10 以上	4 以上	2
	呼吸器	10 以上	4 以上	3
	血液	3 以上	2 以上	2
	神経	10 以上	5 以上	2
	アレルギー	3 以上	1 以上	1
	膠原病	3 以上	1 以上	1
	感染症	8 以上	2 以上	2
	救急	10 以上	4	2
	外科紹介症例	2 以上		
	剖検症例	1 以上		
	合計	120 以上 (外来は最大 12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大 7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げますが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ありません。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

- 疾患群:修了要件に示した領域の合計数は 41 疾患群であるが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験をします。
- 病歴要約:病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要です。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認めます。
- 各領域について
 - 総合内科:病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から 1 例ずつ計 2 例提出します。
 - 消化器:疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれることを必須とします。
 - 内分泌と代謝:それぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出します。
例)「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例
- 臨床研修時の症例について:例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められます。登録は最大 60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大 14 症例を上限とします。

週間予定表

担当の曜日などはその年度によって変更があります。おおまかな例としてご参照ください。

<消化器内科>

専攻医 1 年目

	月	火	水	木	金
始業前	肝臓治療症例検討会	入院症例検討会	入院症例検討会	入院症例検討会	抄読会 外来症例検討会
午前	上部内視鏡 膵胆道系の検査 処置	総合内科外来 腹部血管造影・ 治療	上下部内視鏡 腹部血管造影・ 治療	消化器内科外来	総合内科外来
午後	下部内視鏡 膵胆道系の検査 処置 ラジオ波治療・ 肝生検	下部内視鏡 腹部血管造影・ 治療	下部内視鏡 腹部血管造影・ 治療	下部内視鏡 膵胆道系の検査 処置 ラジオ波治療・ 肝生検	下部内視鏡 膵胆道系の検査 処置
終業後		消化器内科・外 科検討会			

専攻医 2 年目・専攻医 3 年目は専攻医 1 年目と基本的には同じ。2 年目から、週 1 回の新患外来、再来外来あり。

<呼吸器内科>

専攻医 1 年目

	月	火	水	木	金
始業前		抄読会・連絡会			
午前	外来業務	入院患者診療 午前救急	入院患者診療 総合内科外来	総合内科外来	入院患者診療
午後	入院患者診療 気管支鏡検査	入院患者診療 シャトルウォー キングテスト	入院患者診療 気管支鏡検査	入院患者診療 気管支鏡検査	入院患者診療 午後救急 禁煙外来
終業後	放射線症例検討 会	手術症例検討会	新入院検討会	隔月 C P C	

土日は入院患者の病態に応じて診療を行う。

日当直業務・研修会・学会などに参加。

専攻医 2 年目・専攻医 3 年目は専攻医 1 年目と基本的には同じ。

<循環器内科>

専攻医 1 年目

	月	火	水	木	金
--	---	---	---	---	---

始業前	病棟回診	抄読会	病棟回診	病棟回診	病棟回診
午前	総合内科外来	EPS・ABL など 総合内科外来	心カテ 血管内治療など	TAVI も含めた 血管内治療	EP ABL 血管内治療
午後	同上	EPS・ABL など	心カテ・ABL 血管内治療 トレッドミル	同上	同上 救急外来
終業後	MDCT カンファ 心筋シンチカンファ	エコーカンファ 症例検討会	PCI・PPI カンファ など		

PM の ICD・CRTD は適宜

心臓リハ（月・水・金 午後も）当番も適宜

TM・運動負荷シンチも適宜

外来担当日は年によって変更あり

専攻医 2 年目・専攻医 3 年目は専攻医 1 年目と基本的には同じ。外来 1/W・午後外来 1/W・ペースメーカー外来 1/W・救急外来 2/W で曜日は年によって変更あり

<糖尿病・腎臓内科 週間予定表>

専攻医 1 年目

	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
始 業 前					
午 前	入院患者診療	入院患者診療 血管造影 救命救急 C オンコール	総合内科外来 入院患者診療	入院患者診療 透析回診	外来担当
午 後	副科患者診療 入院患者診療	入院患者診療 腎生検 糖尿病教室	救命救急 C オンコール 入院患者診療	透析回診 入院患者診療	入院患者診療 糖尿病教室
終 業 後	副科総回診		病棟検討会	多職種カンファ レンス	外来検討会 抄読会

専攻医 2 年目

	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
始 業 前					
午 前	入院患者診療 透析回診	入院患者診療 血管造影	シャント手術 入院患者診療	外来担当	入院患者診療 救命救急 C オンコール 総回診
午 後	外来担当	入院患者診療 腎生検 救命救急 C オンコール	入院患者診療 糖尿病教室	CAPD 外来 入院患者診療	入院患者診療 副科患者診療 糖尿病教室
終 業 後	副科総回診		病棟検討会	多職種カンファ レンス	外来検討会 抄読会

専攻医 3 年目
専攻医 2 年目と同じ

< 血液内科 >
専攻医 1 年目

	月	火	水	木	金
始業前					
午前	入院患者診療 病棟対応	血液内科外来	入院患者診療 副科対応	通院治療センタ ー	総合内科外来
午後	入院患者診療	救急外来対応 (副科)	入院患者診療 副科対応	通院治療センタ ー 入院患者診療	入院患者診療 病棟対応
終業後		カンファレンス			

専攻医 2 年目

	月	火	水	木	金
始業前					
午前	血液内科外来	通院治療センタ ー	入院患者診療 病棟対応	入院患者診療 副科対応	入院患者診療 副科対応
午後	入院患者診療	通院治療センタ ー 入院患者診療	入院患者診療 病棟対応	入院患者診療 副科対応	入院患者診療 副科対応
終業後		カンファレンス			

専攻医 3 年目

	月	火	水	木	金
始業前					

午前	入院患者診療 副科対応	入院患者診療	入院患者診療 病棟対応	入院患者診療 病棟対応	血液内科外来
午後	入院患者診療 副科対応	入院患者診療 輸血センター	通院治療センタ ー 入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療
終業後		カンファレンス			

<神経内科>

専攻医 1 年目

	月	火	水	木	金
始業前					
午前	病棟回診	病棟回診 救急当番	神経内科外来	放射線検査	超音波検査
午後	病棟回診 読影会	新入院症例カン ファレンス 抄読会	病棟回診 生理検査	総回診 症例検討会 病棟回診	病棟回診 救急当番 読影会
終業後	担当患者の病態 に応じた診療 / 宅直 / 当直 など				

専攻医 2 年目

	月	火	水	木	金
始業前					

午前	神経内科外来	病棟回診 救急当番	神経内科外来	放射線検査	超音波検査
午後	病棟回診 読影会	新入院症例カン ファレンス 抄読会	病棟回診 生理検査	総回診 症例検討会 病棟回診	病棟回診 救急当番 読影会
終業後	担当患者の病態	に応じた診療	／ 宅直	／ 当直	など

専攻医 3 年目

専攻医 2 年目に同じ